

成年
コミック

大月渉

原作 Liquid

黒獣

「気高き聖女は白濁に染まる」

THE COMIC

試し読み版



黒獣

～ 気高き聖女は白濁に染まる～

THE COMIC

Contents

一の砦

005

二の砦

025

三の砦

045

四の砦

065

五の砦

085

六の砦

119

七の砦

139

八の砦

159

あとがき

191



黒の城地下牢

忌々しい
人間らめ…

私めだけなら
いざ知らず—

我が女王まで
この様な場所に
幽閉するなど…

クロエ

黒獣

THE COMIC 一の巻

経緯はどうあれ
我々は敗れたのだ

奴ら共の裏切りも
ありはしたが…

それでも
我らは—

む…

待たせたな
女王様よお

ヴォルト様が
お呼びだぜ

この様な首輪でも
飽き足らんか…

つくづく下卑た
種族だな…

ツ…!?

女王っ…

良いのだ
クロエ



待ってたぜ



元女王様よ



ふっ

カッ
フッ





申しき者よ
今更何用か

お前が支配していた
この国は――

これからは俺が
支配する事にした



ふん……

わざわざ
そんな事を
宣言するために
呼び付けたのか

いいや

俺の部下への
褒美がまだでな



お前さんに
奴等の世話をして
貰おうかとな

成る程
下劣なる人間の
考えそうな事だ

だが

貴様らなぞに
穢されるくらいなら
妾は自ら――



魔力が霧散した…？

何だ…!?



妾もろとも碎けて散れ！



!!
!!
!!



な…っ

首輪で少しばかり細工させて貰ってる



お前さんの魔法は厄介だからな



なに…？

効果はてきめんと
いった処か



…
このままでは…

…ならびに

XXXXXXXXXX

XXXXXXXXXX

XXXXXXXXXX



封印の類の
様ですね

あの首輪をしてこれが…か
最後の抵抗と言う訳だな

これが…



妾の最後の砦よ…

ほお…



気は済んだか
下郎め…

おいおい
何の冗談だ

く…

餓鬼の使いじゃあ
ないんだ



何が始まるのか
判ってるから

そんな封印まで
持ちだしたんだらう？

や…止める
痴れ者がツ!!

妾の身体に
その様なモノを
近付けるなど…ツ



近付けないと
挿入らないだろ？

本当に妾の中に
挿入ってきて…

やめ…

やめ…ろおツ!!



んんん!!

上の口も
空いてるなっ!

こんな下等な
奴等に:ッ



全然足りねえ
手も使わせな!

流石女王様だ
なんてエロい身体
してんだ:



おいこっちも
頼むぜ!!



駄目...だ...
思考が...ぼやけ...

おれ様



たまんねえ...!!

また
射精され:

ふうッ!!



ムム

うわっ…!?

な…何をッ

女王と違って
察しの悪い従者だな

黒獣

THE COMIC 二の巻



なん…だと?

貴様らの国は
我々に敗北した

それくらいは
理解出来るだろう?

……



その点お前の処の女王様は気が利いててな

それは…
どういう事だ

俺達の提唱する
奉仕国家の説明を
してやったのさ

そうしたら
俺の兵の求めに応じて
身体を差し出したよ

な…!!



嘘を言うなッ…!!

あの…

あの気丈な女王が
そんな事をッ!!

勿論そいつ一人で
俺達の全員を相手になぞ
出来るはずもねえ

そこでお前さん
ご招待したって訳だ



貴様…ッ

…とここまで
言えば判るだろう?

要は—

…私が

私が女王の
代わりになれば
という事か



下衆め…ッ

まあ別にお前が
代わりにならんでも

女王を叩き起こす
だけなんだがな？

くっ…



私が…オリガ様の
代わりになれば…

だ…だが
それではまた…っ

くそ…

フフ…



わ…私が女王の
代わりになる…

そうこなくちゃな



やめ...っ

くっ...



ひっ...!?

END...



挿入る訳がっ!!

そんな
大きいモノ...

待てッ!!



おーおー
大したもんだ

オーガチンポを
啜え込んでやがる

やはり
予想通りでしたね

ほう？

お前の言う通り
宛てがったが何か
理由でもあったのか

はい

彼女は一見
ダークエルフでは
あるのですが

生まれ自体は
ハーフの様でして



異獣

異獣を倒す女戦士白濁に魅了する

THE COMIC

三の巻

やめ……ッ

あぁっ……

くっ……!!

もう止め……て
ベアズリー……っ

その様な処に
口を……くっ

何を仰いますか
アリシア姫様

これから私のチンポで
貴女様を女性にして
さしあげようと……

何を——

きゃ……ッ!!

え……何か
当たって……

ひ……ッ!?



あああッ!?

奴のチンポが
挿入って…ッ

あ…がッ



おめでとうございます
アリシア姫様!

今貴女様は女に
なられたのですぞ!

痛…いッ

お女…?
何の事だ…ッ



おっと…

お楽しみ中だったか
ベアスリー

おおこれはキーン殿
お約束頂いた報酬

アリシア様の処女
たった今頂きましたぞっ



さあまだこれから
私の子種汁をたっぷりと

アリシア様の膣なかに
注ぎ込んで差し上げねば!

い…っ!?

ぐううッ!!



な…

報酬…だとっ?

くあッ!!

やめ…ああっ!





お前とこの皆は
私が護ってみせる

え…

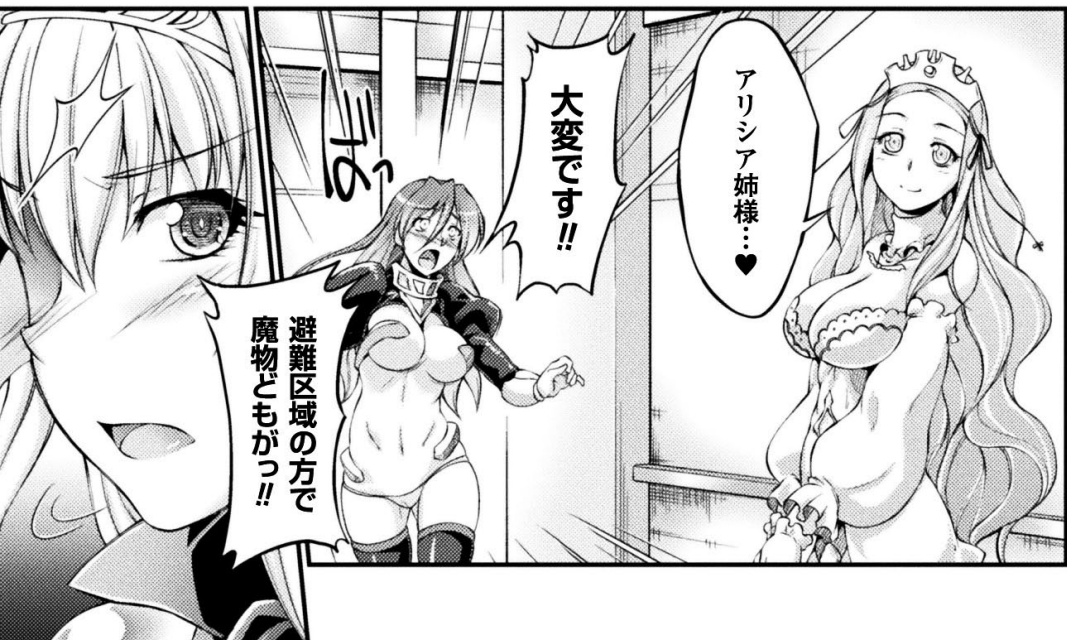
お前はここに
残っていてくれ

プリム…



この剣に
かけて…な

騎士団長の名と…



避難区域の方で
魔物どもがっ!!

大変です!!

アリシア姉様…♡





そそんな…

修道^{シヌタ}女^メ達^{タチ}に
なんて酷い…!!

ハル

ハル

ハル



戦^{いくさ}う^{こと}事^{ごと}すら出来^{でき}な^かった
私^{わたし}を許^{ゆる}してくれ…

民^{たみ}の生命^{いのち}に危害^{がいがい}は
加^くえないとあつた…



く…

あの書^{しよ}状^{じやう}には私^{わたし}が
降^{くだ}伏^{ふく}さえずれば



ああ…あ

くっ…
気持ち悪い…っ

言われなくても
…おおっ…

こんな乱暴を
何故私が…っ

おら
後がつかえてんだ
さっさとしなッ!

サッ

グッ

グッ



グッ

そ…そ…はッ!?

んじゃこっち
使わせて貰うぜ?

もう…
やめろ…っ!

これも私が皆を
護れなかった
罰だというのが…



こうすりゃ良いか
おらっ…!!

グッ

黒獣

～最高聖女は白月に死する～

THE COMIC

四の巻

ヨロ...

っは...あ



...だが

プリムに危害を
加えさせない為にも



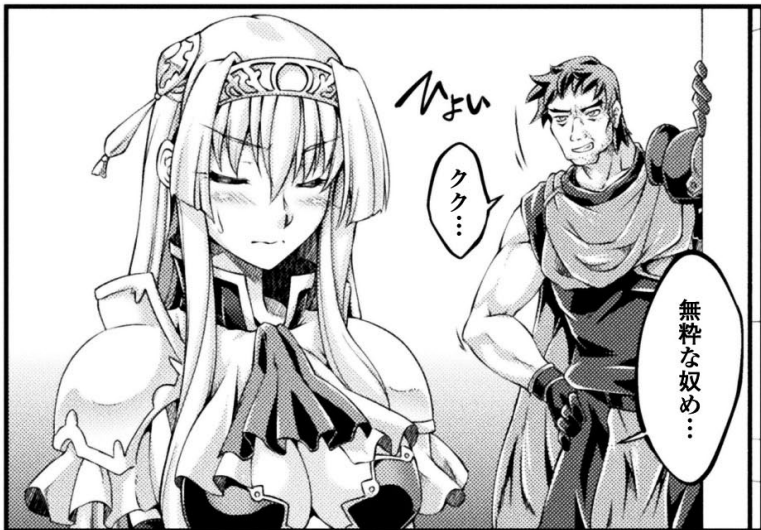
私が...

私が
やらなくては...



いつまであの様な事を
しなければ...

やはりまだ回復
しきらないか...



ふよい
クク...

無粋な奴め...



フフ...
いやア
麗しい姉妹愛と
言ったところか



お前さんがきちんと
仕事出来るのか
気になってなア?



判っていると
思うが—

お前が
しっかり俺たちに
奉仕しないと

足りない分は
あの娘にも働いて貰う
事になるんだがな?

くッ...

お前さんには
もう少し教育が
必要そうだな

な...っ

教育...だと？

ああ

今回はその件でな

ついて来な

てめえの立場って奴を
たっぷりと身体に
覚えこませてやるぜ？

下衆め...っ





なに...?

え...?

まだ男のそれを見るのに抵抗がある様子なんだな

先ずはその格好で男の味を覚えて貰おうって寸法よ



.....



こんなモノをさせてどうする気だ...



っ...ふ...

んう...ッ



おら啜えてみな

う...

は...ん

んく...



味...だと...



フフ…大分
街で慣れてきた
みたいだな

世界は…



んう…

んむっ…



ああ…あいつの
言う通りだ

段々と慣れていく
自分が判る…



…!?



おら…ちゃんと
味わって飲めよッ



んう…

ふッ…



そのままめえが
挿入れてみな



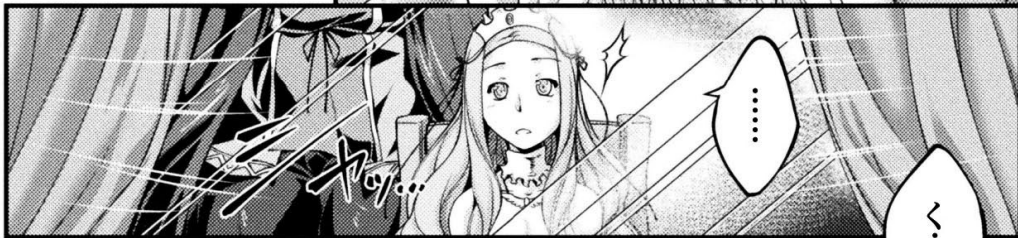
ハイッ



ははっ

くうう

は…
恥ずかしい…ッ



…



…!!

まじでっ…っいな



あッ…!?

くうう

わん

ガッ

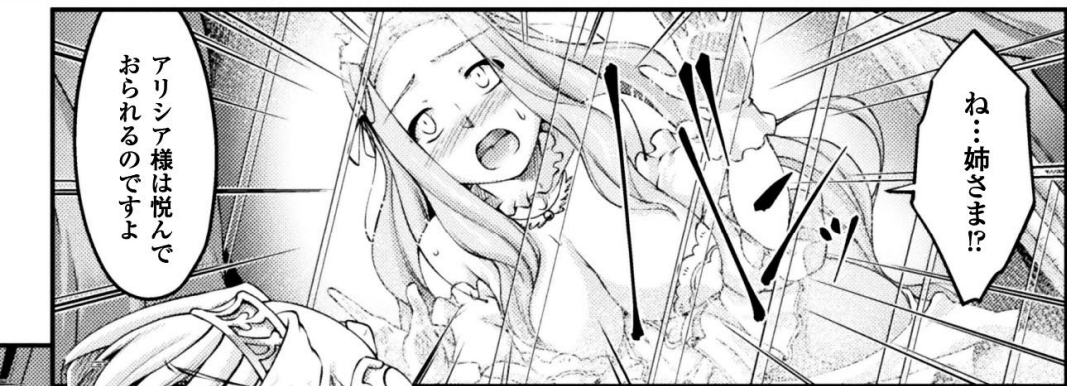


おっしー!

んっ…うっ!!

このくらいは
自分で出来る様
になって貰わんと

あ…ああ…



ね…姉さま!?

アリスア様は悦んで
おられるのですよ



貴女には仕事と称して
お一人であの様に

そ…んな



あッッ

ひんッ...

ひんッ!

おらもっと
善がり顔見せて
男を喜ばせてみろ



視覚を奪われて
犯されるのが...

ふあッ...!!

あッ...

こんなこと...



あれから
奴らの行為はまだ
続いている…

私はまだ
私を保っている
…と思う

THE COMIC

五の巻



随分と粘る
もんだな

俺は

その方が
楽しめる
と思うがね

こうして耐えて
いれはすれ
終わるのだ…

へへ…
違いねえや



そうして奴らの行為を
乗り切る事にしたんだ

そうすれば
いつか…

いつかこの状態を
脱する事だつて…っ

そつだ…プリム…



とても顔向けができません
会っていません…



おらもっと
気合入れなッ!

私がこつしている事で
あの子には危害を
加えない…はずだ



あの日――

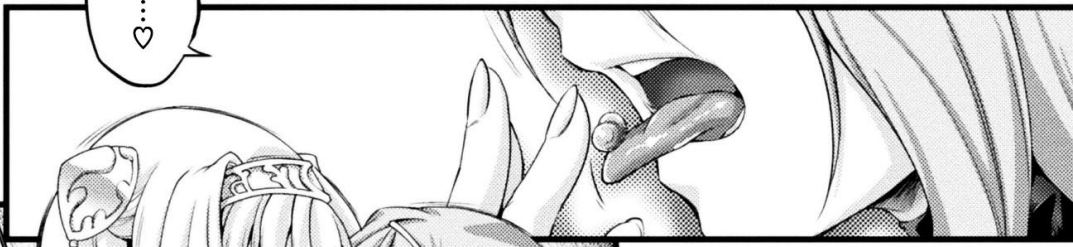
プリムに私の
させられていた事が
露見して以来



こういう事も
久しぶりだな…

プリムの方は
変わり無いか？

はい…♡



よし…
待たせたな

っ…!!



タッ
ゴッ



っは…!!

一体何を…ッ!



ッ…んっ!?

ん…むッ



ま…待て

プリム…っ
何を飲ませ…

あは…



え…あッ

あ…

な…っ
身体の動きが…?



はぁ...♡

私の手で
善がり狂わせて
差し上げますわ...

な...ッ!?

なんであんな
モノがプリムに...

さあ姉さま...

はぁ

カール

カール

カール

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ





貴様らあッ!!

フン…



オッ
ッ!!

ア
ッ!!

ッ!!



はんッ

普段なら
いざ知らず...

が...はッ



そんなだけ弱ってりや
俺らにだって勝てや
しないってもんだぜ？

...って

サロッ

聞こえちゃ
いねえか

おうッ

おい例の部屋に
連れてくぞ

ッあ...あ



貴様ら…

殺してやる…

殺してや…るッ

おお怖い怖い



どうした

そんなに期待してんのか?

こいつら
どこまで知って…



へへ…爺からお前さんの事は聞いているんだぜ?

…ッ!?

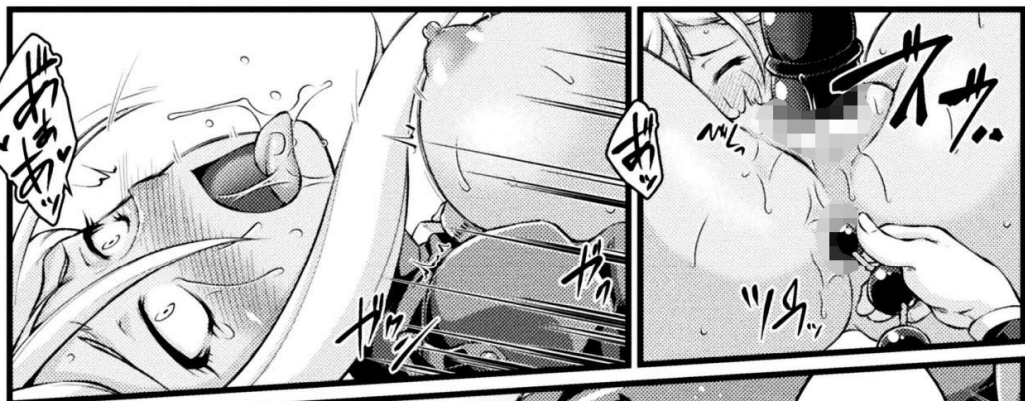


それ…はッ!?



そ…いつを
挿れ…るなあっ

やめる…ッ



昔ずいぶんと
仕込まれたん
だってな？

や…ンツ!!

どんどん溢れて
きてるぜ



中で擦れて
響いてくるッ

くっは…!!



もう充分だろ
俺達も愉しませて
貰わねえと

やめ…今は
抜くなあ…っ!!

挿れるな抜くなって
うるせえ…なッ

お…おい
見てみるよ!

あれって確かか…
例の碧の女王だよな

ああ…

さっき広場で
騒いでた奴って
これの事か…

お披露目とか
何とか言ってた
らしいが…

これじゃまるで
動物だな

にしてもいやらしい
身体してるな…

すげえ…

くそ…

下種な人間
どもめ…

あの様な辱めて
飽きたらす



見る！

お前らの恐れていた
碧の女王はこのとおり
俺達が捕らえた!!

もうこいつは
女王でも
何でもない！

俺達奉仕国家の
ただの性処理係だツ!!

俺達の傘下
なれば——

おお……ッ！

民衆はもう
彼奴らに……

おら
何呆けてんだ

さっさと碧に
戻るぞ

ああ……

うあッ

ま…
流石は女王様だ

見せしめの役目も
人心集めもこなして
くれたってもんだ

これで俺達の
奉仕国家に加わり
たがる奴も

集まってくれる
だろうよ



妾はツ…!!



黒獣

THE COMIC

七の巻



冗談であろう…



う…う…う

ひ…ひ…



な…何を…

放せ
痴れ者めっ!!

ウ…オオ…

んな…っ

なんだあの
大きさは…

ズ
ッ…

ズキッ

やめろ…

やめ…っ

あんなモノを
挿入れられたら
妾は…ッ

っく!!







ああその台だ
しっかり乗せとくれ

う…



おおい
こっちで良いのか？



ん…っ

ああ…
こいつは特別製
なんだとさ

触手壺だったか…
アレの相手をして
よく生きてたな

しかしまあ
何だな…

はア？

黒獣

クワッゾ
～愛嬌も聖女は白濁に染まる～

THE COMIC

八の岩

以前こいつは
人間に飼われて
いたらしくてな

その時に
相当な調教をされて
いたそうだ

ほお…

で…その記憶を
取り戻す手伝いを
してやるって訳さ

うあ…

あの壺の種子を
充分に仕込まれて
下ごしらえは上々

んう…っ

っあ…っ

後はちょっとした
切っ掛けを与えて



んあ…っ

ほらな

出てきたぞ



えっ…

な…何が…



あ...ああ...

ん...な...ッ

な...んだ
これ...は...

おうよ



ま...
待ってッ!!



どれ...
解ってねえ
みたいだから

とりあえず
シゴキ方から
教えてやれ

やめ...
うざあッ!!



惚けてる場合
ではありませんよ

あ…♡

はあ…♡

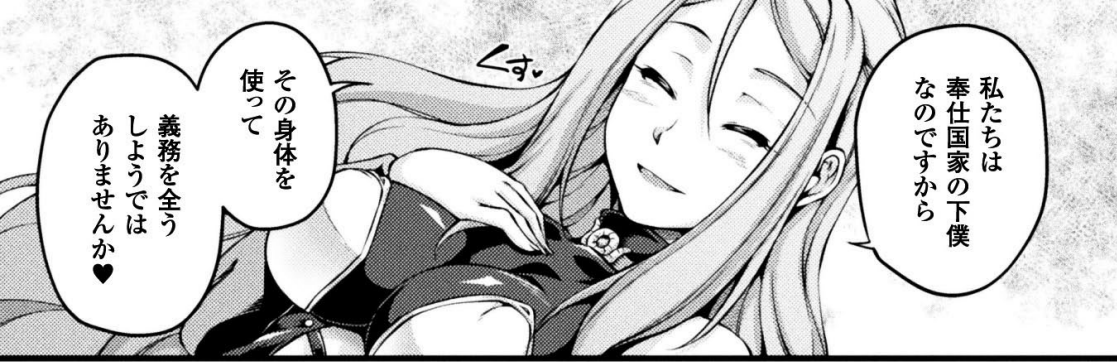
その程度では
殿方が寂しいと
思いませんか？



さあ…
お姉さまがた♡

ちゃんと皆さんに
ご奉仕してよくして
差し上げて下さいね♡

あ…♡



私たちは
奉仕国家の下僕
なのですから

その身体を
使って

義務を全う
しようでは
ありませんか♥



ひゃい…♥

ああ…♥



オリガ様っ♥

ここは私めが
先に味貝を♥

あぁっ
すのびんロハ
私にモ…♥

お姫様も
随分と物分りが
よくなってまあ…

最初からこうなら
俺たちも苦勞せずに
済んだんだがなあ



オリガ様っ
これなら

あ...あ
あ

ん...うたな
♥

二人で
出来ます
♥



んあ...
あ
んあ...
♥

こっちも
頼むぜ!



んん…っ♡

ほら…
殿方はまだ満足
されていませんよ♡

っあん♡

お姉さま方も
ちゃんとお
ねだりして

おねだり…

わらわの…おまんこ
使ってくれ…♡

な…する…っ

私の方を使って
下さいっ…♡

わた…

私の中出して
くたせよ…♡



この続きは製品版をご購入の上、
お楽しみください。

編集・発行

株式会社キルタイムコミュニケーション

〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7 ヨドコウビル

TEL03-3555-3431 (販売) / FAX03-3551-1208

※本作品の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・送信したり、ホームページ上に転載することを禁止します。本作品の内容を無断で改変、改ざん等行うことも禁止します。また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。

©KILL TIME COMMUNICATION Printed in Japan

<http://ktcom.jp/>